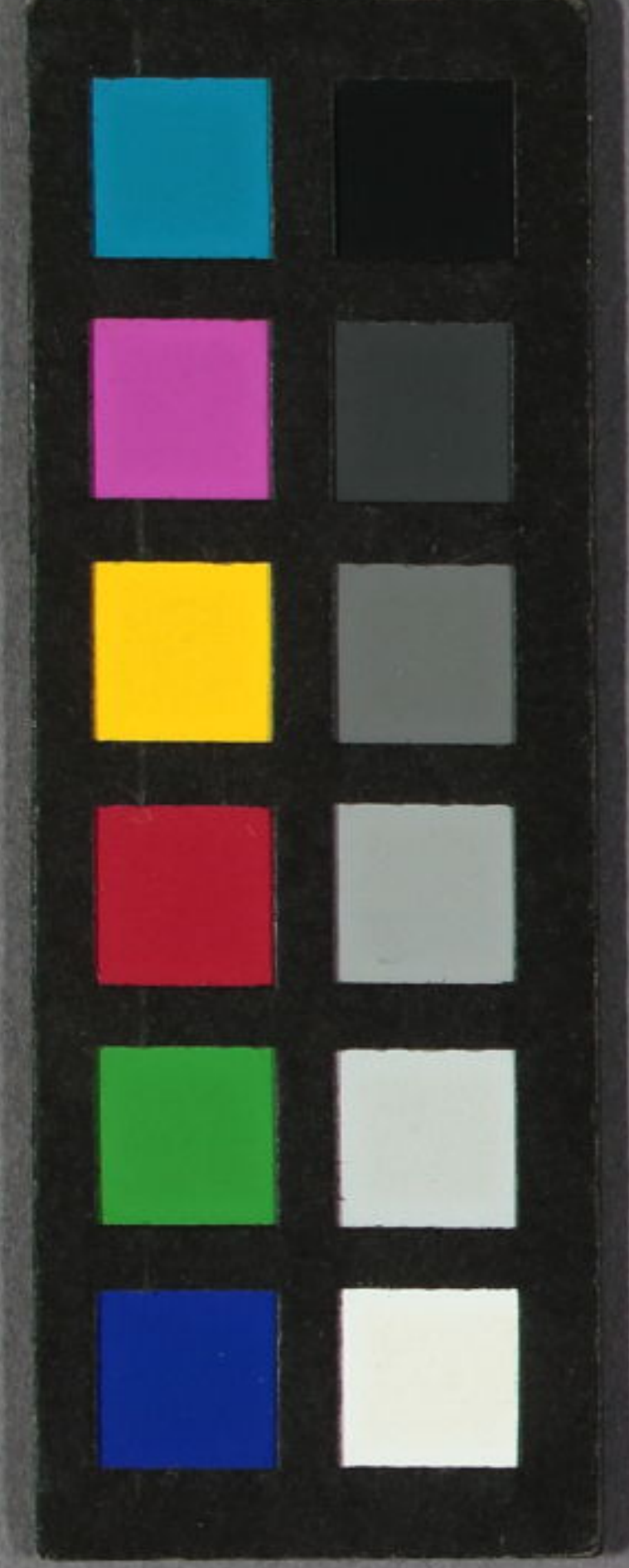


東海
道中
膝栗毛
初編

二
全

^ 13
3286
2



門 へ 13
號 3286
卷 2

昭和十六年一月十一日
尼野貴英氏 贈

附言

滑稽道中膝震毛と云板元が親達の石介板が凡庫の
巢虫たらしんとて成人が是を頻り頭痛に悩んで磨滅を
補ひせよとせし候せども板元は金魂の大ききお發賣敷も
如何なる途にも少く是に力を得て頃日漸く再發を
四方小告しに幸ひ明治社聖世の腹被碎も不碎も
雅信を問はば宜しく家業の暇に之を見おへば胞後絶倒
胸膈も自然と衰きそ無病息災百葉年のは為奉る
乞と清合ふ板元の其効能も知りしめや世程より四方の
の所候文遠里佳客の郵書を飛せし陸續購求て止
ざれは彼頭痛不悩し世活ぬが喉を被の標吹あつて板元

本清

ののけの幸ふ然るに近日又此書を披葦或の表飾を改め
 葦賣たる若甚ぶ多け進いも皆不全板元是を河童の
 尻ちまとも思ひだ看若も亦評して回草双紙の所蔵小
 賤しく活版の振向を失ふと反て板元が元板の賣數茂
 増長といの嗚呼亦何と急がし心と小言も裏の看客諸君
 の愛顧は厚きと僅で爰に此標を申上り為め板元も少
 しく布袋を覚由事と頼まご怒め皮を突張十返舎翁の著
 書い固より近世有名なる式亭三馬山東系傳等の著書
 初め板元が必務め珍貴數百卷其面向より漸次出版せんと
 欲き甚くは巻末の目錄を以笑覧の上も求め所んことを
 西暦十五年
 壬午仲秋
 珍々堂滑稽書屋 江島伊太刺

道中膝栗色序



管相ハ里の長持唄ふきおぼき
 幸川の心を和らげ外一子雀の馬士
 唄へ人鬼殺を炯也一はく是ここの葉の
 傳め内て百千謡の想ふ都七し
 てりがりの狂賃帳を纏ふ也

半馬の是埒平 ついで 千子 の 成馬の い りえ ま 杖を
 し こ ち の 意 こ り を へ て け ん じ を 編 む べ し ける
 今 を 休 め 通 して 五 千 三 百 の ち せ り 千 を 毎
 宿 を 替 へ と す べ に 割 増 重 を 所
 小 使 儀 に 妻 を 送 り 給 は れ が 中 も 時
 辰 難 の せ 一 等 押 し け て ち よ ぶ る 意

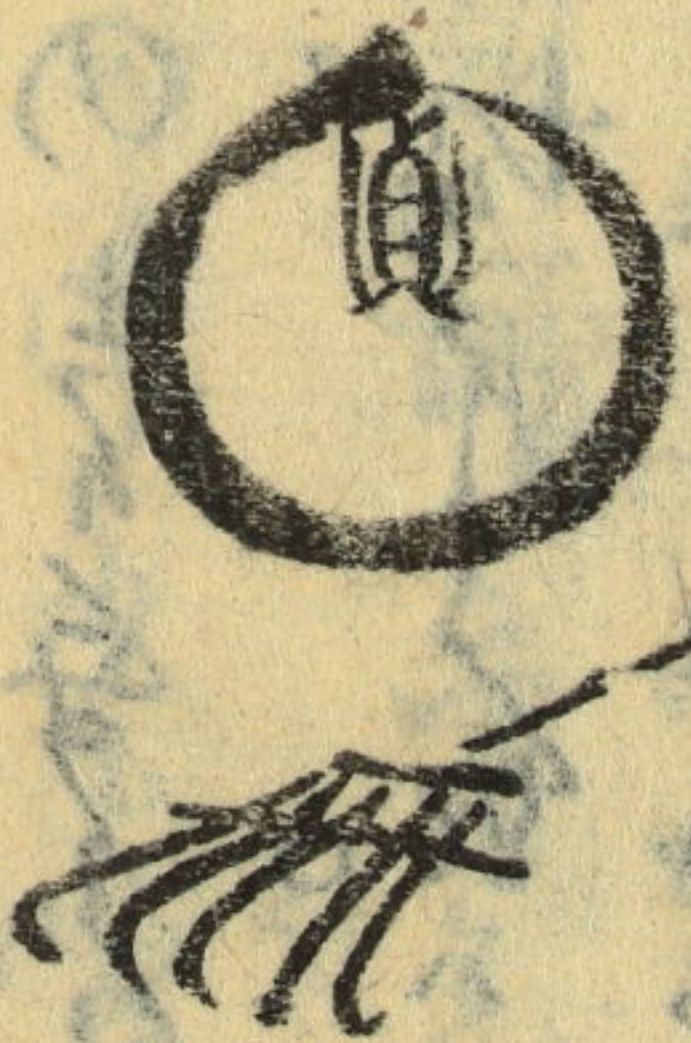
乃 の 必 に 抗 す 其 の 有 ら ば も 七 の 年 の 成
 ち あ り 一 つ ち に 六 の 空 を 居 る の ま ち を 解
 ち め る の 成 乃 向 は 金 の 場 は 一 つ ち に 八 の 年
 頼 み 申 す 一 つ ち に 子 の 本 の 字 を 出 す べ し 也
 今 を 休 め 通 して 五 千 三 百 の ち せ り 千 を 毎
 宿 を 替 へ と す べ に 割 増 重 を 所
 小 使 儀 に 妻 を 送 り 給 は れ が 中 も 時
 辰 難 の せ 一 等 押 し け て ち よ ぶ る 意

乃 の 必 に 抗 す 其 の 有 ら ば も 七 の 年 の 成
 ち あ り 一 つ ち に 六 の 空 を 居 る の ま ち を 解
 ち め る の 成 乃 向 は 金 の 場 は 一 つ ち に 八 の 年
 頼 み 申 す 一 つ ち に 子 の 本 の 字 を 出 す べ し 也

維時字和二載

壬戌孟陽吉且

十返舎一九誌

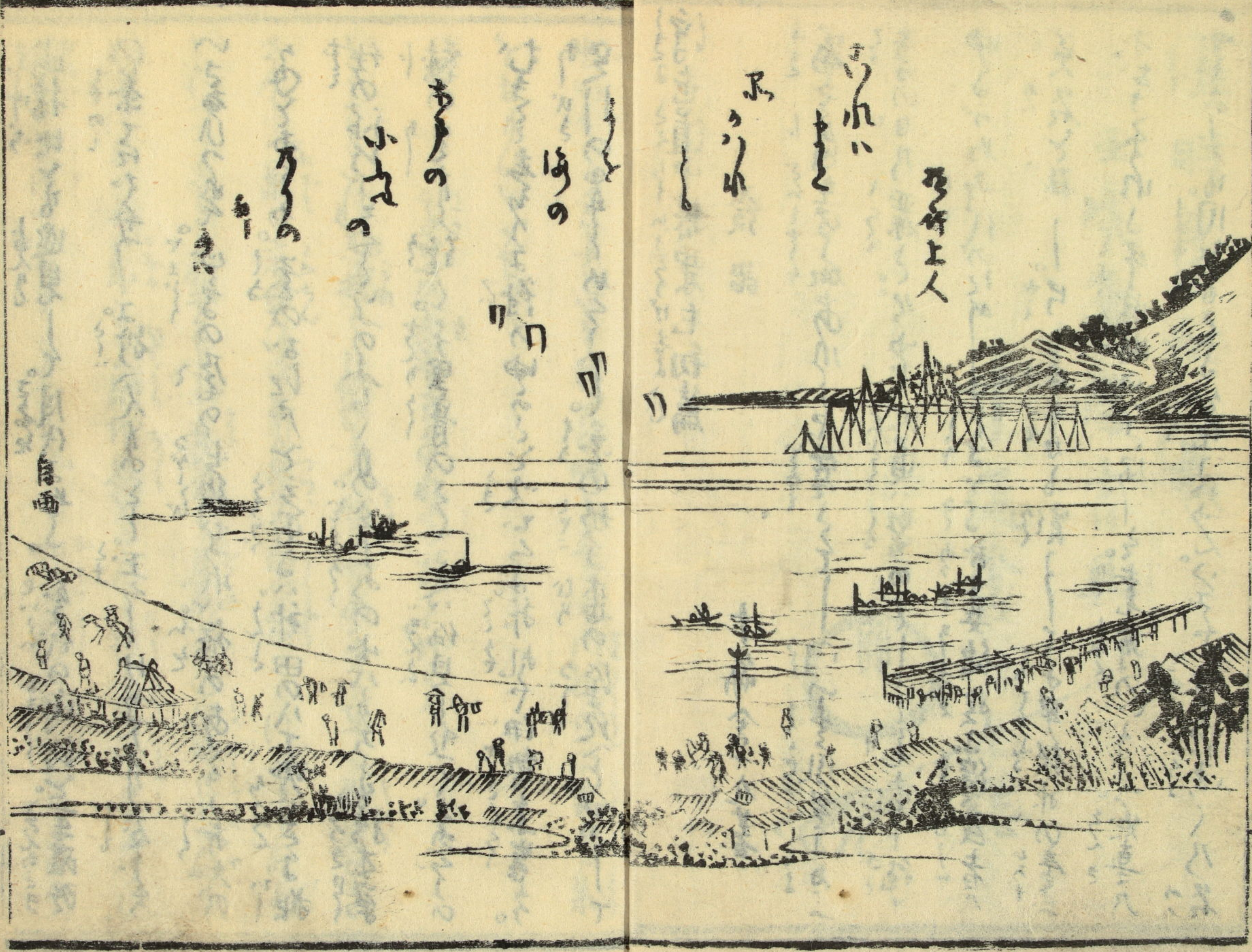


浮世道中傳粟毛初篇

發註

十編舎一九著

Handwritten text in vertical columns, including the title '浮世道中傳粟毛初篇' and various annotations and commentary.



町新上人

うね

ふ
うね

うね

うね

うね

うね

うね

うね

山猪比も巡見して月代より。聖代の御法と菩薩の

の茶をたむやう。折へ人よと。玉うけさるるなり

いさひついで山猪の尾の毛皮やれ縁のあるる山猪の

ゆとあてぬ。そのおに戸とまては神田の八丁町をさす押

住のほらぶきくひのふらふの合点の小八ありも持たま

魅のまじり強く。千里膏のくくは似見と強く。たむくの

むきまきうは符の中のことといふ。井丸や伊勢茶屋

足川のゆらめく。そのおはよのぼのぼへとむさう

出のうらまはせもさかたの町まらう。川板の舞台集

とまういらんせが

さうな久本とてさうめつさうはう

とくくはれ。井くは似ひる。さうやあるめまう。拙者のま

さん。前の店集りつと書し。呪との。けさう。たを

くさう。さう。まを。まながく。とめさのれ物代を

のふはれ。れが。外よ玉洞。板ときりて。おの切とりのい

大さ(首)とまう。とむさう。御笑所のゆ形とむさう

よきものこころをさくらけて念ふ人からかたがたに
まよひせられしや。後葉のまひりし。まよひたる人
のこころをさくらけて念ふ人からかたがたに
まよひせられしや。後葉のまひりし。まよひたる人
のこころをさくらけて念ふ人からかたがたに
まよひせられしや。後葉のまひりし。まよひたる人

まよひせられしや。後葉のまひりし。まよひたる人

まよひせられしや。後葉のまひりし。まよひたる人

おろしひつて泳びてまよひしや。後葉のまひりし。まよひたる人

雖此亡命の奈何 借金不報揮尻遺

大居本買裁し衆 将是川向成干戈

うち舟がどてやうやういふ川へはく泳びてまよひしや

海辺とばなすともある川とよまをうん

と難しうまよひしや。後葉のまひりし。まよひたる人

まよひせられしや。後葉のまひりし。まよひたる人

まよひせられしや。後葉のまひりし。まよひたる人

おそゆきしや飛あゝ人のくびさるる

ほけつお谷ちれ終かかりこら

かみり
大巻の入りは妻兼ふくの各物よておきよおきよ

版しつゝもまらゝんくまゝへ

ちぬら子どもとまより一版のこと

くさ
そのようこのほとて。まわして支えせんし。種

とのけのくさ。おんこう。ばんやま。はてせんこのま

きい。おんこう。おんこう。今の女の房をよめまへ。柳を

飛ころけがりの白よりあつたまも梅はこうなれしん

そしてあつた中のまをい。舟のまよひつゝひこと

いけとく。Sasの。おの。おん。おん。おん。おん。おん

の。おん。おん。おん。おん。おん。おん。おん。おん

おん。おん。おん。おん。おん。おん。おん。おん

おん。おん。おん。おん。おん。おん。おん。おん

おん。おん。おん。おん。おん。おん。おん。おん

おん。おん。おん。おん。おん。おん。おん。おん

ふくろぶらうのさきつりかまよぞとけちあちのん。ト。サ。サ。と
 し後でもいへんか。ハ。ナ。セ。ナ。テ。ク。あ。ら。ま。の。く。な。し。ま。せ。よ。を
 しるは。な。ま。い。る。ハ。イ。ロ。ウ。シ。カ。マ。ヤ。マ。ヨ。ゾ。ト。シ。の。な。し。ん。ん。
 ち。づ。ー。け。て。な。る。か。の。さ。き。い。ひ。お。の。へ。せ。な。い。し。と。は。い。ち。
 くの。が。い。ら。く。い。ま。う。い。ま。い。の。坂。で。な。り。れ。た。い。こ。と。が。あ。り。ん。ん。
 お。し。て。い。ま。を。あ。れ。な。し。ん。ん。と。り。ま。あ。り。し。せ。ば。い。ち。を。あ。れ
 どの。も。い。ん。ん。に。ま。ん。ま。を。ま。う。ら。て。い。ま。の。尻。が。あ。ら。ん。ん。は
 の。い。れ。な。い。所。も。ん。ん。の。ま。り。と。い。ま。い。ん。ん。の。ま。り。
 ち。づ。ー。の。い。ま。の。ま。ん。ま。を。あ。い。ま。い。の。ま。り。と。い。ま。い。ん。ん。
 ち。づ。ー。の。ま。り。の。ま。ん。ま。を。あ。い。ま。い。の。ま。り。と。い。ま。い。ん。ん。
 くの。ま。り。の。ま。ん。ま。を。あ。い。ま。い。の。ま。り。と。い。ま。い。ん。ん。
 ち。づ。ー。の。ま。り。の。ま。ん。ま。を。あ。い。ま。い。の。ま。り。と。い。ま。い。ん。ん。
 くの。ま。り。の。ま。ん。ま。を。あ。い。ま。い。の。ま。り。と。い。ま。い。ん。ん。
 ち。づ。ー。の。ま。り。の。ま。ん。ま。を。あ。い。ま。い。の。ま。り。と。い。ま。い。ん。ん。
 くの。ま。り。の。ま。ん。ま。を。あ。い。ま。い。の。ま。り。と。い。ま。い。ん。ん。
 ち。づ。ー。の。ま。り。の。ま。ん。ま。を。あ。い。ま。い。の。ま。り。と。い。ま。い。ん。ん。
 くの。ま。り。の。ま。ん。ま。を。あ。い。ま。い。の。ま。り。と。い。ま。い。ん。ん。

ち。づ。ー。の。ま。り。の。ま。ん。ま。を。あ。い。ま。い。の。ま。り。と。い。ま。い。ん。ん。

かやさういふおやアセ。あつらひる。いんげん。やま。いんげん。かやさういふおやアセ。あつらひる。いんげん。やま。いんげん。
かやさういふおやアセ。あつらひる。いんげん。やま。いんげん。かやさういふおやアセ。あつらひる。いんげん。やま。いんげん。
かやさういふおやアセ。あつらひる。いんげん。やま。いんげん。かやさういふおやアセ。あつらひる。いんげん。やま。いんげん。
かやさういふおやアセ。あつらひる。いんげん。やま。いんげん。かやさういふおやアセ。あつらひる。いんげん。やま。いんげん。
かやさういふおやアセ。あつらひる。いんげん。やま。いんげん。かやさういふおやアセ。あつらひる。いんげん。やま。いんげん。

かやさういふおやアセ。あつらひる。いんげん。やま。いんげん。

馬士歌
 本馬とれと貫用
 許貸毛尽光高塚
 自え牛荏只於止
 のちまのちえ世傳



少をさうよくまのやりのりよりよ一報引く一りりやとてまのり
 十段のまへくこ。ライくむねやしく。ちよま
 おとろよびらる。ちよま
 ちよま
 ちよま
 ちよま

ちよま
 ちよま
 ちよま
 ちよま
 ちよま

ちよま
 ちよま
 ちよま
 ちよま
 ちよま

ちよま
 ちよま
 ちよま
 ちよま
 ちよま

ちよま
 ちよま
 ちよま
 ちよま
 ちよま

ちよま
 ちよま
 ちよま
 ちよま
 ちよま

ちよま
 ちよま
 ちよま
 ちよま
 ちよま

ちよま
 ちよま
 ちよま
 ちよま
 ちよま

ちよま
 ちよま
 ちよま
 ちよま
 ちよま

ちよま
 ちよま
 ちよま
 ちよま
 ちよま

きかばはち。ア。お父のつらふいよ。トははち。おんや

みぐら。うけいさうを。おやちのちく。おんや。おんや。

ああ。うら。い。る。コウ。女中。の。ち。よ。の。ま。り。おんや。

おんや。おんや。おんや。おんや。おんや。おんや。おんや。

おんや。おんや。おんや。おんや。おんや。おんや。おんや。

おんや。おんや。おんや。おんや。おんや。おんや。おんや。

おんや。おんや。おんや。おんや。おんや。おんや。おんや。

おんや。おんや。おんや。おんや。おんや。おんや。おんや。

おんや。おんや。おんや。おんや。おんや。おんや。おんや。

おんや。おんや。おんや。おんや。おんや。おんや。おんや。

おんや。おんや。おんや。おんや。おんや。おんや。おんや。

おんや。おんや。おんや。おんや。おんや。おんや。おんや。

おんや。おんや。おんや。おんや。おんや。おんや。おんや。

おんや。おんや。おんや。おんや。おんや。おんや。おんや。

おんや。おんや。おんや。おんや。おんや。おんや。おんや。

おんや。おんや。おんや。おんや。おんや。おんや。おんや。

かゝるやうなうへにねせ中々金もも枝葉を養

け。注がめんをまらるる身服でも穿てなぶらあるゆめそのこ

こすち せんごんてん。 田所の及々鬼丹コリヤさらうやのきくこ級せんちうたじ

のうけがくも。かしくていさくぬまのさう。古ちいかりいぬぬぐひる。

おほくひなふるがも徳用コリヤやうやうん。しやうコリヤ

コリヤやうやうん。しやうコリヤやうやうん。しやうコリヤ

さんぶらう。さうははくさくさくをコリヤいぬ入せんしやう

ゆりまらぬがまらぬやうなまらぬ。たあさんせんもさるはけめて入せん

あつてうへるせんいぬ入せんしやう

いぬ入せんしやう

いぬ入せんしやう

いぬ入せんしやう

いぬ入せんしやう

いぬ入せんしやう

いぬ入せんしやう

いぬ入せんしやう

いぬ入せんしやう

いぬ入せんしやう



あしの上りさうさうさうさう乃辭

そねさうおあそちねふさうおあそさきが石とんてハハとむ

はさしおあそのさおあそいおあそ教おあそみもおあそ列おあそのさ乃

おのおあそのおあそ石おあそとおあそさうおあそーおあそ列おあそ乃おあそ

活おあそさおあそさおあそさおあそさおあそさおあそ

ちおあそちおあそちおあそちおあそちおあそちおあそちおあそちおあそちおあそ

ひおあそさおあそさおあそさおあそさおあそさおあそさおあそさおあそ

新おあそおおあそおおあそおおあそおおあそおおあそおおあそおおあそ

そんおあそ上人おあそがおあそ刀おあそ匠おあそさおあそさおあそさおあそさおあそ

つおあそれおあそくおあそくおあそくおあそくおあそくおあそくおあそくおあそ

刀おあそ匠おあそさおあそさおあそさおあそさおあそさおあそさおあそさおあそ

本おあそのおあそ目おあそのおあそ長おあそ方おあそびおあそのおあそ顔おあそのおあそ掛おあそ合おあそもおあそちおあそづおあそもおあそ斗おあそりおあそ月おあそと

まおあそりおあそるおあそがおあそくおあそくおあそくおあそくおあそくおあそくおあそくおあそ

よおあそふおあそおおあそめおあそ解おあそかおあそよおあそくおあそくおあそくおあそくおあそくおあそ

くおあそもおあそ二おあそ三おあそ四おあそ五おあそ六おあそ七おあそ八おあそ九おあそ十おあそ

コレおあそもおあそあおあそめおあそはおあそれおあそはおあそうおあそておあそちおあそとおあそけおあそておあそ

水風呂の谷とぬきく^し科^しゆへ^し

中^ちの^のき^きの^のき^きと^とぬ^ぬき^きく^く科^しゆへ^し

た^たの^のき^きの^のき^きと^とぬ^ぬき^きく^く科^しゆへ^し

い^いの^のき^きの^のき^きと^とぬ^ぬき^きく^く科^しゆへ^し

い^いの^のき^きの^のき^きと^とぬ^ぬき^きく^く科^しゆへ^し

い^いの^のき^きの^のき^きと^とぬ^ぬき^きく^く科^しゆへ^し

い^いの^のき^きの^のき^きと^とぬ^ぬき^きく^く科^しゆへ^し

い^いの^のき^きの^のき^きと^とぬ^ぬき^きく^く科^しゆへ^し

い^いの^のき^きの^のき^きと^とぬ^ぬき^きく^く科^しゆへ^し

い^いの^のき^きの^のき^きと^とぬ^ぬき^きく^く科^しゆへ^し

い^いの^のき^きの^のき^きと^とぬ^ぬき^きく^く科^しゆへ^し

い^いの^のき^きの^のき^きと^とぬ^ぬき^きく^く科^しゆへ^し

い^いの^のき^きの^のき^きと^とぬ^ぬき^きく^く科^しゆへ^し

い^いの^のき^きの^のき^きと^とぬ^ぬき^きく^く科^しゆへ^し

い^いの^のき^きの^のき^きと^とぬ^ぬき^きく^く科^しゆへ^し

い^いの^のき^きの^のき^きと^とぬ^ぬき^きく^く科^しゆへ^し

女めおよびわらふま—^はうらあはらぬからぬ。さういふの

女め申ふうらると教しよへてよいとてあつらふ。どふぞあるとてよこせ

らん後うへ女めいあなうあなわうおまうと女の唇くちびるへていふ

さう。わらう入いぬと引ひちめをさうしめし^女き

お体ていやうなせしめしめしめしめしめしめしめしめしめしめし

いふとれやわらういふとれやわらういふとれやわらういふとれや

トわらうらういふとれやわらういふとれやわらういふとれや

やういふとれやわらういふとれやわらういふとれやわらういふとれ

はつが—わらういふとれや

おまはつもの—わらういふとれや

おこらふけ—わらういふとれや

彼かれらに胸むねうたへてわらういふとれや

のみ—一ひと睡いのまゝもさうてわらういふとれや

そまう—うたへてわらういふとれや

おほま—うたへてわらういふとれや

わらういふとれや

人のあはよやどくせいでまおやほ

本堂地まる石どりのまぢ

ていよくあはよやどくせいでまおやほ

あはよやどくせいでまおやほ

あはよやどくせいでまおやほ

あはよやどくせいでまおやほ

あはよやどくせいでまおやほ

あはよやどくせいでまおやほ

あはよやどくせいでまおやほ

あはよやどくせいでまおやほ

あはよやどくせいでまおやほ

あはよやどくせいでまおやほ

あはよやどくせいでまおやほ

あはよやどくせいでまおやほ

あはよやどくせいでまおやほ

あはよやどくせいでまおやほ

本譜

つがひいさきをぐりさむりうらうら

されとも 鬼ハ之ぬ 抄

お茶漬乃さみうらうら 辻巻

おーめしよふる 抄の 抄

御冥所をみる

春風のも 形とあはれ 春う代乃

戸まぬ 冥と あゆま せと

新編 一峰の巻 北公乃 函

珍堂出版滑稽戯作目録

道 膝栗毛 十返舎一九作 東海道 同 画十八冊

道 膝栗毛 十返舎一九作 本曾海道廿五冊 同 画 奥羽道中十五冊

大晦日ウチ 元百餅 滑稽二日酔 十返舎一九作 貳冊

浮世 滑稽六あみだ詣 十返舎一九作 初編貳冊 二編貳冊 三編貳冊

馬耳 滑稽 滑稽大師 十返舎一九作 三冊

滑稽 滑稽 餘史 曲亭馬琴 壹冊

廓中掃除 同 他 壹冊

傾城怪談客物語 貳亭馬琴 壹冊

一 孟 綺 言 式亭寫他 志 冊

忠 臣 藏 編 癩 氣 論 同 他 志 冊

田 舎 芝 居 忠 臣 藏 同 他 志 冊 初編志冊 式編志冊

狂 言 田 舎 探 同 他 志 冊

行 流 麻 疹 北 浮 言 同 他 志 冊

廓 蕪 用 同 他 志 冊

辰 巳 婦 言 同 他 志 冊

同 紅頭深紅 編 同 他 志 冊

書 四 京 傳 餘 却 山東京傳他 志 冊

傾 城 觸 同 他 志 冊

小 紋 雅 結 同 他 志 冊

契 情 買 虎 乃 卷 同 他 志 冊

青標 和終 新 造 國 彙 同 他 志 冊

手ふたの 拵 面 草 娼 妓 結 ぶ 心 同 他 志 冊

洞房 女流 志 け 干 結 同 他 志 冊

夜 半 糸 桑 積 同 他 志 冊

青標 錦乃裏 の世家 同 他 志 冊

志上川莊記

出雲守作

壹冊

廊北大帳

同作

壹冊

傾城買二筋道

風來山人著

二冊

彙軌本紀

高田金吾著
江藤出鳳堂抄校

壹冊

自惚鏡

同

壹冊

娼妃地理技

同

壹冊

遊子方二言

田舎老人作
多田之藤

壹冊

南客文集

田代金吾作

壹冊

浮世物
多木 舊觀帖

鬼武一作
十通管元校閱

湯鍋式冊
武鍋式冊
六通式冊

